

講義名	研究演習
講義コード	45049
担当教員	木村 敏夫
開講期・曜日・時限	通年 木曜日 5時限
備考	

ゼミ
企業財務分析
学部
商学部
学科
経営学科
演習名
木村敏夫

概要説明
<p>本演習の目標は、「会社を知る」ことに在る。その方法を考える。企業が公表する会社は、沿革、株式、株主、生産・販売等の情報が記載される「有価証券報告書」、IR情報等を主に利用して「企業」の現状・将来を把握する方法を学ぶことにある。会社が公開する情報の大半が財務情報である。したがって、主に、財務情報等を助けて、「企業（会社）」を見る、分析し、評価する。企業の財務情報を理解するには、その情報を作成の基礎である「企業会計」「財務（管理）論」の理解が不可欠である。企業が行う経済活動（資本調達、資本運用、生産・販売等）は企業会計の仕組みを通して認識・測定、記録され、一定期間別に財務報告書に要約される。企業を分析する資料として財務報告書の理解が不可欠である。このため、本演習は、分析資料を作成する基礎となる「企業会計」を学習し、最終的に財務報告書に集約された有価証券報告書等の企業情報に示される「情報」が何を意味しているのか、さらに、企業の現状、将来の状況を分析するために如何に利用できるか、またその限界を修得することを演習目的とする。</p>

学位
経営学修士

教員よりの要望
<p>「知る」ためには鍛錬を必要とする。演習目的を達成するために、2年後期から4年卒業研究に至る学習サイクル、財務情報、財務分析、卒業研究（企業分析事例）を一巡と考え指導する。この学習サイクルを一巡するために、財務情報の仕組を知る必要がある。3年次前期の演習時間は「企業財務」の理解に充当する。3年次後期の財務分析・企業評価の方法の学習をもとに、「卒業研究」は、各自で選択する「企業」等の財務情報、資料などに基づいて各自の学習・研究報告を中心に行う。その結果を卒業論文として集約させる。と言うのが建て前です。なかなか全課程をやり通すのは難しい。「100年均一の店でA6、A5ノートを買おう、使おうから始まります。読み、書き、伝える。2年間半で何問つぶすかを試そう（使ったノートは一生捨てない）」、が演習のモットーです。演習テーマは「会社」を知ろう、調べようです。知ってそうで、知らないかもしれないのが「会社」です。本田技研工業、トヨタ自動車、花王、イオン、7&I、サントリ、アサヒビール、ハウス食品、日清食品、三井住友銀行、りそな銀行等、名前は知っている。「では、どのようなことをしている会社ですか」「そんなの知っているよ」。ほんとは、では、皆さんが利用したことがある、ハーゲンダッツ、ミスタードーナッツ、マクドナルド、ロッテリア、不二家、ファミリーマート、AM&P、ユニクロ等、飲んだことがあるかもしれない、ヤクルト、三ツ矢サイダー、コカコーラ、カルピスは誰が生産し、販売し、会社を運営されています（人と言わないで下さい）、知っていると言えるかな。</p>

教員英字氏名
TOSHIO KIMURA

研究室
2704

最終学歴
専修大学商学研究科博士後期課程満期退学

主な研究活動・社会活動・研究業績

主な卒業論文のタイトル
<p>フジッコ株式会社の財務分析 アイフォセント株式会社の財務分析 CSKホールディング財務情報分析 兵庫興信用組合の財務分析 リーマンショックとはなんだったのか V回復の本質・日本マクドナルドホールディングス</p>

趣味・特技

所属
商学部経営学科

所属学会
日本会計研究学会、日本マネジメント学会、日本経営分析学会

専門分野
会計学、財務分析

選考方法
面接

担当科目
基礎簿記、経営情報分析、財務分析論

備考
大学の講義は、学問・学科目を「理解する」のが目的・目標する。体系的な理解の後に、理解した知識をもとに、「考える」、これが「知恵」となる。知恵は自分でしか取得できない。与えられるものではない。学後知不足。学生は、「真似る」ことから始める。真似るとは、「書き写す」ことではない。書き写すは、著作権

評価方法
課題報告